



大分大学理工学部(工学部)
同窓会機関誌

翔工 第30号

大分大学理工学部(工学部) 同窓会「翔工会」
〒870-1192 大分市旦野原700 大分大学理工学部内
電話097-554-7804, 097-554-7823
令和2年3月17日発行

機関誌「翔工」第30号の発行にあたって

同窓会長 松尾孝美



機関誌「翔工」第30号をお届けいたします。同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。また、平素より理工学部(工学部)同窓会の活動に対しますご支援とご協力に心より厚くお礼申し上げます。

現在、同窓会機関誌を翔工会ホームページにて公開し、会員の皆様には機関誌を発行したことをお知らせ

するはがきを郵送いたしております。同窓生の皆様には、ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

翔工会HP: <http://shokou.csis.oita-u.ac.jp/>

また、同窓会行事の広報のために、Facebookを開設しています。Facebookで、「大分大学工学部同窓会」で検索していただければ、すぐに見つかると思います。

工学部は2017年4月より、理工学部2学科8コースに改組され、3年が経過しようとしています。理工学部長の劉孝宏教授(機械コース)に理工学部3年目のトピックスとこれからの取り組みについてご寄稿いただきました。劉学部長は3月いっぱい学部長を退任されます。改組前のグランドデザインから改組後の運営に至るまで、大変なご苦労があったことと思います。厚く御礼申し上げます。引き続き、機械コース教授として教育と研究に当たられますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、2020年4月より越智義道教授(副学長、数理科学コース)が新たに理工学部長に就任されます。18歳人口の減少により益々地方大学の運営は厳しさを増していますが、これまでの全学での運営手腕が生かされることと思います。越智教授にも就任前のご挨拶をご寄稿いただいております。

改組特集としてこれまで各コースの紹介をご寄稿いただいておりましたが、今回は、創生工学科福祉メカトロニクスコースの池内秀隆コース長と共創理工学科知能情報システムコースの古家賢一コース長からコース紹介をご寄稿いただいております。

今年度は6名の教職員の方々が退職されます。機械コースの首藤周一技術職員、福祉メカトロニクスコースの濱本誠教授、長野忠則技術職員、建築学コースの大鶴徹教授、真鍋正規教授、総務係の高野靖信係長です。多くの同窓生が大変お世話になりました。これまでのご恩に厚く御礼申し上げます。今回の機関誌では、退職される大鶴先生と真鍋先生から、これまでの思い出のご寄稿いただきました。

2019年9月20日大分大学創立70周年記念式典がレンプラントホテルにて挙行されました。当日配布されたリーフレットには各同窓会1名のOBのお言葉が掲載されました。翔工会からは、昭和54年組織工学科卒の松浪正信氏に寄稿いただきました。文字数の制限がありましたので、今回の機関誌に改めてご寄稿いただきました。創立70周年記念式典の様子につきましては、以下のURLから大学ホーム

ページをご覧ください。

<https://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/topics/2019-042.html>

また、大分大学と大分大学同窓会連合会の共催で、2019年度もホームカミングデーが大分大学にて、同窓生との合同交流会が宮崎にて開催されました。ご参加いただいた方に厚く御礼申し上げます。詳しい内容は、以下のURLの同窓会連合会ホームページをご覧ください。

同窓会連合会

H P : <http://www.alumni.oita-u.ac.jp/index.html>

理工学部では、学部改組に連動して学年進行で大学院の改組を計画しておりましたが、第4期中期計画に伴う大学改革のため、理工学研究科への改組は中止になり、工学研究科で理学系教育プログラムを入れることになりました。今後どのような改革が進められていくのか、注視していきたいと思います。

末筆ではございますが、理工学部（工学部）同窓会の活動に、かわらぬご理解とご協力をお願いいたしますとともに、同窓生の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

「令和元年度の大分大学工学部・理工学部」

理工学部長（創生工学科機械コース）教授 劉 孝 宏



理工学部同窓会であります「翔工会」の会員の皆様方におかれましては、日頃からますます活躍されていることと存じます。私は、平成30年4月から理工学部長を拝命しております。元号も平成から「令和」に代わり、新たな気持ちでスタートを切ることができました。

理工学部では、地域や産業界のニーズに対応するため、「工学の専門性を究めつつ理学の素養を併せ持つ人材」及び「理学の専門性を究めつつ工学の素養を併せ持つ人材」を養成しており、それらを実現するために、理工融合教育を実現して参りました。工学部から理工学部へ改組を行ってから、約3年が経過し、完成年度まで約1年となりました。1年後には理工学部として初めての卒業生を輩出することになります。

理工学部では、令和元年度に第一期の入学生が3年生となり、特徴ある理工融合科目である「基礎理工学PBL」、「応用理工学PBL」を実施しました。理工学部では、学部全体で理工融合科目の体系化を図っており、1年次の学部導入教育である「基礎理工学入門」、コース別導入科目である「サイエンス基礎」、「科学技術基礎」等の科目を通じて習得した後、理工融合科目の集大成となる「基礎理工学PBL」、「応用理工学PBL」へとつながります。特に、「応用理工学PBL」では、学生の所属分野だけではなく、他の所属分野の学生と混成チームを作ることで、PBLを実践するものです。異分野の学生とコミュニケーションを取りながら、課題解決に取り組んでいました。これまで学習した各専門分野での教育内容を基盤として、複合的課題にチャレンジすることで、大変よい経験になったのではないかと思います。

令和元年度のトピックスをご紹介します。昨年度にご紹介いたしましたが、平成30年10月17日に理工学部と一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構（JSS）との間で、宇宙開発利用に係る連携協力に関する覚書を交わしました。そこで、令和元年度は、JSS様から多くの講師の皆様にご足を運んでいただき、大学院教育での講義にご協力いただきました。中でも、4月の大学院入学時のガイダンスにおいて、すばる望遠鏡を開発され、NHKの「プロジェクトX〜挑戦者たち〜」にもご出演された三神泉様に来学いただき、すばる望遠鏡の開発における貴重なご講演を賜りました。三神様にご講演いただきました際の写真を掲載しております。また、理工学部共創理工学科の原ゆう奈さんが、平成31年3月22日から24日まで大阪市で開催された第44回全日

本バトントワーリング選手権大会において好成績を収め、アーティスティックペア シニア日本代表として、令和元年8月にフランスで開催された第10回WBTFインターナショナルカップに出場しました。以下のホームページに情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/topics/2019-006.html>

私は、令和2年3月末日をもちまして理工学部長を退任いたします。在任中は大変お世話になりました。令和2年度からは、現副学長の越智義道先生が新たな学部長として就任され、さらなる魅力ある大分大学理工学部を目指して改革を進められることとなります。今後とも、ご支援、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。会員の皆様方におかれましても、お体にお気をつけ、引き続き活躍されることを祈念しております。



＜三神泉様によるご講演風景＞



＜左から、衣本准教授、三神様、劉学部長、高山様＞

次期学部長からのご挨拶

工学研究科 教授 越智義道



工学部同窓会「翔工会」の会員の皆様には、益々ご活躍のことと存じます。新年度令和2年度4月から、現理工学部長の劉孝宏教授から学部長を引き継ぐことになりました越智義道です。皆様には本機関誌第26号（平成28年3月発行）で、理事（社会連携・国際担当）・副学長就任のご挨拶をさせていただいておりましたが、その後教育担当の理事を経て昨年10月に理事の任期満了により理工学部門に戻って参りました。私が工学部を離れた後、前学部長豊田昌宏先生を始めとする工学部教職員の方々のご尽力により、平成29年度には、念願であった理工学部への改組が成り、新入生を迎え、新たな体制の下での教育が始まりました。その後学年進行に合わせて順次新しいカリキュラムが動き始め、現学部長の劉孝宏先生にパトナタッチされてからも、着実にその歩みを進めて、輻輳する最近の社会課題に対して、俯瞰的視野に立つと同時に、原理・原則から問題を捉えて複合的な知見の活用により課題解決にあたることのできる人材育成のプログラムがほぼ完成に

近づいて参りました。本年度にはその大きな柱ともいえる「基礎理工学PBL」・「応用理工学PBL」といった新たな理工融合科目を理工学部第1期生である3年生が履修しました。いよいよ、来年度はその完成年度であり、彼らを社会に送り出す年度となります。このタイミングで理工学部長を仰せつかり、重責に身の引きしめる思いであります。

現在、大分大学としては国立大学としての第3期中期計画も終盤に差し掛かり、第4期中期計画の策定に向けて文部科学省との対話のフェーズに入っています。3月にはその第1回目の意見交換が行われますが、将来を見据えて、大分という地にある国立大学として、今後どのように教育・研究・社会貢献を推し進めていくのかが問われることとなります。理工学部・工学研究科としても、これまで、昭和47年に工学部が発足して以来、諸先輩方が心血を注いで積み上げてこられた実績を基礎に、大きく変化を続ける社会の情勢を見据えて、大胆な変革を継続していく必要があります。教職員一丸となって、新たな時代に求められ、そして時代を先導していく理工学部として、その機能をさらに高めていくよう努力をしてゆく所存ですが、各界でご活躍の同窓生の皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

理工学部特集

「創生工学科福祉メカトロニクスコース」

令和元年度コース長 教授 池内秀隆

同窓生の皆様におかれましては、ますますのご活躍のこととお喜び申し上げます。

2017年4月の改組に伴い、工学部福祉環境工学科メカトロニクスコースおよび機械・エネルギーシステム工学科エネルギーコースの一部合併で、創生工学科福祉メカトロニクスコースが設置されました。本コースの主な母体となった工学部福祉環境工学科メカトロニクスコースは、平成9年、工学部福祉環境工学科福祉機器コースとして発足し、すべての人が平等に、より安全で快適な社会生活を送るためにメカトロニクス・システム工学を応用した技術開発・技術者の育成を目標に、機械・電気と、統合技術としての制御情報システムを学び、メカトロニクス技術者として機械・電気を中心とした産業界で活躍できる人材を教育してきました。

本コースは、これらに加え、高度IT社会にも対応でき、ロボティクス・サイバネティクス分野にも精通した人材を輩出するため、数理モデル構築力や高度シミュレーションなどにも力を入れます。学生は、メカトロニクスの基盤分野である機械・電気・計測制御・情報システム等に関する科目に加え、ロボット工学、サイエンス解析、非線形システム概論、バイオメカニズムなどのロボティクス、サイバネティクス分野への基礎となる科目などを学び、リハビリテーション工学、身体運動機能学、生体情報工学などの福祉や医療・スポーツなどへの展開が可能な科目も選択できるようになっています。

現在の学生定員は35名ですが、旧福祉環境工学科メカトロニクスコースでは、例年10名前後の学生が大学院（工学専攻福祉環境工学メカトロニクスコース）に進学しております。卒業生のうち1、2名ほどが、他大学の大学院に進学する年もあります。さらに、リハビリ施設や病院の理学療法士や作業療法士が、工学を学びたいと働きながら大学院に入学・修了し、各職場に戻って活躍しています。

メカトロニクス技術は、今日の産業・社会生活を広く支える中核技術となっています。そのため、卒業生の間口は広く、一般的な製造業、各種機器メーカーはもとより、建設業、化学工業、運輸、通信、食品、健康、福祉、金融、行政、農林水産業など様々な分野でも活躍が期待できます。

このような高度福祉社会に貢献できるメカトロニクス及び福祉工学系技術者・研究者を養成するため、機械、電気、電子、制御、その他の多彩な分野の教員が配置され、医療福祉工学分野はもとより、メカトロニクス応用、計測応用、スポーツ、言語など、それぞれの分野において多様でユニークな研究にも取り組んでいます。

昨年度は、長年ご尽力いただいた、今戸啓二教授、小川幸吉教授、前田寛教授、ハラン・トーマス講師、末光治夫助教の5名の先生方が退職を迎えられました。一方で、一昨年度に加藤秀行助教（現講師）、昨年度に小池貴行准教授、大谷英理果講師を新たに迎え、新体制でコース運営を行っております。本年度末には濱本誠教授が定年でご退職予定ですが、新年度は高炎輝准教授が着任予定となっております。

本コースの活動内容や近況を下記ホームページおよびfacebookにて随時更新しています。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.md.oita-u.ac.jp/>
<https://www.facebook.com/mechatronics.oita.uni/>

時代は令和に代わり、社会は大きな変革を迎えております。大学を取り巻く状況もますます混迷を深めているといっても過言ではないと思います。このような中で、本コースの教職員は一丸となって、新たな時代に対応できる学生を育て、社会のより良い発展の一助となる研究・教育に邁進していきたいと誓いを新たにしております。



<理工12号館>



ホームページ
QRコード



facebook
QRコード

「共創理工学科知能情報システムコース」

令和元年度コース長 教授 古 家 賢 一

知能情報システム工学科を卒業されました同窓生の皆様、それぞれの分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。3年前より工学部は理工学部となり、知能情報システム工学科は、共創理工学科の知能情報システムコース（旧計算機システム講座と旧知識システム講座）と数理科学コース（旧情報科学基礎講座）に分かれました。ここではその変革の時期における、知能情報システムコースの近況をご報告したいと思います。

知能情報システムコースは、改組により定員が70名から少し減って65名になりました。研究室は、講座制を廃止して各指導教員の名前を付け、吉田和幸研究室、大竹哲史研究室、古家賢一研究室、紙名哲生研究室、中島誠研究室、高見利也研究室、行天啓二研究室に再編されました。教育カリキュラムも変わりました。工学を学ぶ学生にも理学の素養をもってもらうために、他コースも含め分野横断的な科目が新設されました。さらに3年生に進むとPBL（課題解決型）の授業も新設されました。多くの科目でアクティブラーニングの実践が取り入れられていて、卒業研究だけでなく、普段の授業でも学生が主体的に学ぶことを狙っています。また、数理科学コースと組織上分かれたましたが、共通する科目も多くあり、お互いの専門科目を受けられるようになっていきます。プログラミング科目は引き続き力を入れて教育しており、2年生が全員参加するプログラミングキャンプは継続して実施しています。

世の中が令和の時代となり、これから大分大学はどうか、知能情報システムコースの将来はどうか、予測は難しいのですが、時代はまさにAIをはじめIoT、

Big Dataがキーワードとなる「知能情報」の時代に入ってきました。それに伴って企業からの求人数も増え、卒業生の就職率はほぼ100%となっております。昨年度の主な就職先は以下の通りです。アイシン・コムクルーズ、インフォセンス、NECソリューションイノベータ、NECフィールディング、NTTデータ九州、オーイーシー、大分キャンノン、大分シーイーシー、OKIソフトウェア、九州NSソリューションズ、QTnet、九州電力、シティアスコム、JR九州、JA大分総合情報センター、ジェイデバイス、スリーエイシステム、ゼンリン、ソニーLSIデザイン、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、ソフトバンク、大銀コンピュータサービス、東京エレクトロン、凸版印刷、ドコモCS九州、ドワンゴ、日立システムズ、富士通、富士通九州システムズ、三菱電機、三菱電機インフォメーションシステムズ、三菱電機インフォメーションネットワーク、明電舎、メルコパワーシステムズ、モバイルクリエイト、リクルートなど。

近年、AI、IoT、Big Dataなどの技術革新が急速に進んでおり、卒業後も仕事をしながら日々新しい技術の習得の必要性を感じている方もいらっしゃるのではないかと思います。そのための選択肢の一つとして、知能情報システムコースでは社会人の博士後期課程の学生を募集しておりますので、ぜひご検討ください。ご関心のある方は本コースまでお問い合わせください。

これからも教育研究に教職員一同邁進していくつもりですので、どうぞご支援ください。

退職される先生方より

理工学部 創生工学科 建築学コース 教授 大 鶴 徹

翔工会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成3年度初頭（1991年4月1日）に建設工学科へ着任し、令和元年度末（2020年3月31日）に創生工学科建築学コースを退職する大鶴です。皆様には大変お世話頂き有難うございました。とりわけ、建設工学科・建築系関係各位と建築環境工学講座の山崎均先生*、前任の故・三木信博先生には心からお礼を申し上げます。

着任早々、山崎先生から「大分は静かだから騒音は無いよ」のお言葉とともに騒音計1台を、また「コンピュータがあるから大丈夫だね」と励まして頂きました。分大セン

ターFACOM M770/6と高速回線経由で九大センターVP200をぶん回し、準備していた『有限要素法による室内音場解析』を開始致しました。

実験では、各方面から測定装置を、また熊大から残響室を借用致しました。精密な波動解析結果と比較するには丁寧な実験が不可欠です。熊大残響室での泊り込み、若しくは、本学無響室の利用を検討し始めたある日、本学の立派な残響室を「発見」し今日に至っています。おそらく、稼働率世界一の残響室です。ただし、大雨の度に繰り返す浸水と日中の低周波ノイズや衝撃音については頭を痛めてい

ます。

音響数値解析について、1995年に境界要素法で著名なA. F. Seybert (Univ. Kentucky) のもとで在外研究を行いました。現地の最新鋭スパコンで自分のFEM解析を並列処理させたところ、全システムがフリーズしてしまいました。原因はLapackのバグで、翌日には世界中でアップデートが行われたそうです。同室の博士院生達が「日本人がやったらしい」「おまえか?」と騒いだので「そうだ、でも俺のせいじゃない」と答えときました。

その後も、境界要素法や差分法の研究者達と議論を続け、大分でも何度か研究会を開催しました。内外の先生方がお越しになられる中、S. Marburg (Tech. Univ. Dresden, 現Tech. Univ. Munic) は「日本になんか行きたくない、大分? どこ?」「観光もショッピングも興味ない、終日境界条件の議論をやろう」と、接待役泣かせの石頭でした。しかし、大分大の研究会の翌日、東大本郷の講演で「大分は良かった」と、写真入りで力説していました。竹田城址と荒城の月のおかげです。石頭はScorpions (ヘビメタ) のファンだったのです (実際、Skin head)。

その接待役の一人だった富来氏 (現・建築コース准教授) は、有限要素解析と残響室の実験結果を用いて博士論文を仕上げました。その後も、高橋、岡本、豊増、奥園、Nazli, Musli, Kusnoの各氏が博士学位を取得し、今も坂本氏とSiwat氏が博士取得へ向け奮闘中です。

あっという間に2020年です。「高くて買えない」と2003年の国際学会で文句をつけたPUセンサが、手元に5台揃いました。「うちは数値解析の研究室だ」と叫びつつも、信頼できる結果を求めて実験を繰り返すうち、PUセンサの感度が湿度で変化することを見出し、『現場でも使える』PUセンサ校正法に関する論文に繋がりました。発見者のKusnoさんに「メンドくさいから、忘れよう」と説得を試みたのですが、頑固者の彼女は「自分は間違っていない」と譲りませんでした。

このように、頑固者や変人も多い中、卒論生・修論生の協力で、丁寧な実験と解析を重ねた結果が、上記各氏の博士論文に繋がったものと感謝致します。有限要素法による大規模音場解析も、材の吸音特性のin-situ測定法(EA法)も、お陰様で内外で高く評価されるようになっていきます (建築学会賞、音響学会佐藤論文賞、同環境音響賞、IIAV Honorary Fellowなど頂きました)。

建物壁面の吸音率の測定、特に現場測定は“very difficult problem”と言われてきました。大分大学発のEA法で、全てが解決しそうなところまで来ています。得られるインピーダンスを用いれば、有限要素法の境界条件を構成でき、室の音響特性を高精度で算定できます。

あと少しのころのようですが、私は退職です。ただ、お陰様で科研費が2年間継続できますので、詰めに組み込む所存です。多少、時間がかかり過ぎか、との反省はございますので、これを契機に、さらなる高速化と並列化を図ります。

本当に有難うございました。今後も、どうぞよろしくお願い致します。

(*山崎均先生は令和2年1月ご逝去なさいました。心からご冥福をお祈り申し上げます)



<着任した1991年度卒業式後の環境系研究室スナップショット>

「大学生生活を振り返って」

理工学部 創生工学科 建築学コース 教授 真 鍋 正 規



令和2年3月に定年退職を迎えることになりました。大分大学での生活は40年にわたる期間になり、ほんとうに年月が過ぎ去るのは早いと実感します。

これまでを振り返って、着任当時の古き良き時代? の学内生活の思い出を簡単につづってみました。思い起こせば、本学に助手として着任したのは1979年4月です。私の卒論指導教官であった山崎先生から、大分大学に来ないかと声をかけていただいたのがきっかけでした。当時は建設工学科という名称で、建物はまだ建築中でエネルギー工学科棟に間借りしていました。まもなく建設工学科棟が完成し居室が使えるようになりましたが、新設の学科のため設置機器類もほとんどなく部屋はがらんどうの状態だったことを印象的に覚えています。着任当初は構内の独身宿舎に住んでいましたが、住み込みの管理人がいるのに掃除当番・風呂当番があったのには驚きました。

山崎先生が研究室で初めて導入した設備がシミュレーション用のミニコンでした。この装置の維持管理、研究用プログラム開発・シミュレーションなどが私の最初の仕事でした。等時間日影計算プログラムなどを開発し、計算結果をXYプロットに出力し日影図などを作成していたことを覚えています。研究分野は建築環境工学であり、主として室内環境に関する基礎的研究が中心です。建設工学科の一期生が研究室へ配属されてきたのは1980年4月のことです。学科の初めての卒業式は1981年3月でした。当時は学生との年齢差もあまりなく、よく研究し遊び活動的な日々でした。このころ毎年夏に研究室で学生たちとキャンプにいらしていたことが懐かしく思い出されます。建設工学科の第1期生、2期生も既に還暦を迎えており、感慨深いものがあります。

1978年頃からパソコンが発売され始めました。それにつれてパソコン雑誌も創刊され、当時これを見るのを楽しみにしていました。個人的にはApple IIを購入しbasicやアセンブラをいじったりしていました。以前の汎用コンピュータでは、3次元モデルから建築パースを表示するだけでも大変な手間がかかっていました。しかし、パソコンが出現しモニター画面で簡単にグラフィック表現が可能になったので、建築環境の図形表示ということで研究や教育

に関連したさまざまなことに取り組みました。レイトレーシングによる建築CGパースのプログラムを開発し、1985年からは建築設計教育の一貫として、建築設計演習において学生に自分が設計した建物のCGパースの作成をさせたりしました。

学内の仕事に関することでは、入試関係のことが印象深いです。1992年に入試電算委員になりました。この委員は後任者がいなくてやめることができませんでした。およそ10年にわたり担当することになり、緊張する仕事でもあったのでいろいろ苦労しました。2010年に入試委員長になり、

その期間中の2011年に東日本大震災が発生しました。後期試験に被災者がいる場合の対応を話し合ったことなどが思い出されます。

大学在任中に、昭和、平成、令和と時代は変化しました。令和は昨年変わったばかりです。ちょうどよい節目に退職となり、私もそろそろ人生の店じまいを意識していくときがきたのだなと感じています。長い期間にわたり大分大学で仕事を続けることができたのは、ひとえに皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。これからも大分大学、大分大学同窓会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

お知らせ

・退職者の紹介

創生工学科建築学コースの大鶴徹教授、真鍋正規教授、創生工学科福祉メカトロニクスコースの濱本誠教授、長野忠則技術職員、基盤技術支援センターの首藤周一技術職員、事務部総務係高野靖信係長が令和2年3月をもって退職されます。

・学位取得者の紹介

平成30年度博士学位を取得された方々を紹介いたします。(学位記番号順・敬称略)

中村将俊、中西章敦、三宮基裕、吉川悟史、阿部 功、木下 創、齋 琳、金 大一

・卒業証明書の問い合わせについて

最近、同窓会に卒業生から卒業証明書の問い合わせが多く見られます。同窓会では証明書等の発行業務は行っておりませんので、卒業証明書等のお問い合わせやお申込みは、下記のところをお願いいたします。

住所：〒870-1192
大分市大字旦野原700番地
大分大学理工学部学務係
電話：097-554-7757 または、7758

訃 報



次の方の訃報に接しました。
謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

機械工学科 昭56年卒 崎 田 光 弘 様
(令2年1月18日)

機械工学科 昭57年卒 村 上 正 浩 様
(平30年11月20日)

組織工学科 昭57年卒 厚 母 一 義 様

「大分大学ホームカミングデー2019」報告

同窓会会長 松尾孝美

学生交流会館B-Foret(ビ・フォーレ)にて、11月4日(月)に「ホームカミングデー2019」が開催され、同窓生58名(翔工会からは原勇人氏、戸高副会長、松尾の3名の参加)と名誉教授6名(工学部からは佐藤誠治先生と井上正文先生が参加)、事務系退職者2名、および大分大学28名、学生参加団体(「サウンドファミリー」、「医学部管弦楽団」)10名が出席されました。

第一部「交流会」では、北野正剛学長より挨拶がありました。続いて、同窓生を代表して、豊友会会員である教育

学部教授の大上和敏氏より「日本の温泉、大分の温泉」と題した講演がありました。最後に、各学部長等から各学部・研究科等の現況説明が行われました。第二部「懇親会」では「サウンドファミリー」や「医学部管弦楽団」による演奏のアトラクションがありました。次いで、豊友会の岩尾淳一氏の開会挨拶、相良浩四極会名誉会長による乾杯の音頭があり、会食となりました。会食中に、佐藤誠治名誉教授および各同窓生からスピーチがありました。最後は、玉樹会の高倉健会長による閉会の挨拶がありました。

大分大学『同窓生との合同交流会』in 宮崎の報告

同窓会副会長 戸高孝

令和元年10月5日(土)に宮崎市のホテルメリージュにて「大分大学『同窓生との合同交流会』in宮崎」が開催されました。合同交流会では、各学部・研究科等の同窓生が一堂に会し、始めに同窓会連合会役員および大分大学の役職者が紹介され、秦政博同窓会連合会会長の挨拶が行われ、続いて各学部の部局長より、教育・研究活動や就職状況など現状報告が行われました。最後に、守山正胤(研究・社会連携・産学連携・地域医療人材育成・福祉担当)理事の挨拶があり、「大分大学と同窓生とのパイプ役として、また、入学志願者の拡大や在学生の就職支援などにおいても引き続きご協力を賜りたい。」とのお願いと、国からの運営費交付金が減額される中、競争力をもち、高い付加価値を生み出す大学への転換が求められ、社会全体からの支援による財源の多様化・強化など、自己収入の拡充も喫緊の課題となっているため、寄付金等の財政面での支援のお願いが

ありました。北野正剛学長はご都合によりご欠席でした。

懇親会は、松尾孝美翔工会会長による開会挨拶及び乾杯の音頭で開宴し、途中で豊友会・四極会・玉樹会・翔工会(稲葉薫氏)の各同窓生から近況報告等があり、最後は金丸光臣豊友会 宮崎支部長の一本締めにより宴を閉じました。

出席者は、豊友会14名、四極会15名、玉樹会3名、桜樹会1名、翔工会7名、大学役職者8名、ならびに大学職員7名とのことでした。

宮崎での開催は初めてでしたが、同窓生の近況をお伺いし、親睦を深めることができ、非常に有意義であったと思います。今後も継続的に『同窓生との合同交流会』は各地で開催される予定ですので、お近くで開催の際には是非一度お誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。次年度は北九州市での開催を計画しております。



合同交流会風景(秦政博連合会会長の挨拶)



懇親会(松尾会長の開会挨拶)



懇親会(稲葉薫氏の近況報告)

令和元年度 大分大学理工学部（工学部）同窓会評議員会報告

同窓会副会長 戸 高 孝

2019年9月21日13時30分より17時まで、ホルトホール大分404会議室にて令和元年度の評議員会を開催しました。出席者（敬称略）は以下の通りでした。

評議員からは、(大分支部)江口正一、塚本賢治、東 宏治、(熊本支部)柿下耕一、水野 節、(福岡支部)深田啓輔、(大阪支部)平岡 学、橋本芳典、中矢繁芳、(東京支部)

柏原康彦、豊田耕一、顧問からは、新見昌也、斎藤国壽、藤澤 徹、雲井将文、苮木禎史、理事会からは、(機械部会)松岡寛憲、(電気部会)原 正佳、(知能情報システム部会)西島恵介、(応用化学部会)竹内直紀、(エネルギー部会)斎藤晋一、(建設部会)富来礼次、(会長)松尾孝美、(副会長)戸高 孝



＜評議員会集合写真＞



＜評議員会風景＞



＜懇親会風景＞

同窓会活動状況

令和元年度の活動状況および現在の理事、評議員の名簿を以下に掲載いたします。

■ 活動状況

§ 令和元年6月13日(休)

第1回理事会（大分大学にて）

議題

- (1) 役員の交代について
- (2) 平成30年度収支決算書（案）について
- (3) 令和元年度予算書（案）について
- (4) 監査について
- (5) 平成30年度評議員会よりの検討事項について
- (6) 同窓会連合会について
- (7) その他

§ 令和元年8月1日(休)

第2回理事会（大分大学にて）

議題

- (1) 平成30年度収支決算書について
- (2) 令和元年度予算書について
- (3) 令和元年度評議員会について
- (4) 令和元年度監査状況について
- (5) 同窓会連合会行事について
- (6) その他

§ 令和元年9月21日(土)

評議員会 (ホルトホール大分 404会議室にて)

- (1) 平成30年度事業報告
 - (2) 平成30年度決算報告
 - (3) 令和元年度事業計画 (案)
 - (4) 令和元年度予算書 (案)
 - (5) 今後の運営に関連する事項
 - (6) 2020年度評議員会開催予定について
- 評議員会終了後懇親会

§ 令和元年10月5日(土)

大分大学「同窓生との合同交流会」in 宮崎
(ホテルメリージュ)

§ 令和元年11月4日(月)

「大分大学ホームカミングデー2019」
(大分大学学生交流会館にて)

§ 令和元年12月9日(月)

第3回理事会 (大分大学にて)

議題

- (1) 役員の交代について
- (2) 令和元年度評議員会報告と検討事項のまとめ
- (3) 機関誌「翔工第30号」の編集について
- (4) 大分大学ホームカミングデー2019報告
- (5) 同窓会交流会 in 宮崎報告
- (6) 事務連絡協議会報告
- (7) その他

§ 令和2年1月29日(水)

第4回理事会 (大分大学にて)

議題

- (1) 機関誌「翔工第30号」の編集について
- (2) 卒業祝賀会および卒業記念品、退職記念品について
- (3) 令和元年度評議員会よりの検討事項について
- (4) 役員の交代について
- (5) 卒業生の住所調査について
- (6) 同窓会連合会について
- (7) その他

§ 令和2年3月中旬

第5回理事会 (大分大学にて)

§ 令和2年3月17日(火)

機関誌「翔工第30号」発行予定

§ 令和2年3月25日(水)

卒業祝賀会開催予定

■ 支援助成事業等

§ 学科・留学生補助：留学生友の会 (年会費)、各部会の
学科行事補助 (講演会補助など)

■ 理事名簿

会 長	松尾 孝美	(エネ昭55卒)
副会長	戸高 孝	(電気昭58卒)
会 計	楠 敦志	(電子平2卒)
顧 問	新見 昌也	(機械昭59卒・61院修了)
	斎藤 国壽	(機械昭53卒)
	森 勝浩	(機械昭63卒)
	藤澤 徹	(電子平5卒・7年院修了)
	雲井 将文	(電気平2卒・4院修了)
	吉野 清己	(機械昭52卒)
	荻木 禎史	(電気平3卒・5院修了)
理 事	松岡 寛憲	(機械昭51卒・機械部会長)
"	宮崎 泰成	(修士課程在学・機械副部会長)
"	兒玉 篤志	(修士課程在学・機械代表理事)
"	原 正佳	(電気平3卒・5院修了・電気部会長)
"	槌田 雄二	(電気平4卒・6院修了・電気副部会長)
"	佐藤 尊	(博士課程平23修了・電気代表理事)
"	西島 恵介	(組織平1卒・3院修了・組織部会長)
"	賀川 経夫	(組織平3卒・5院修了・組織副部会長)
"	足立 徳子	(組織平5卒・組織代表理事)
"	牛ノ濱三久	(応化平7卒・9院修了・化環部会長)
"	人見 隆太	(修士課程在学・化環副部会長)
"	竹内 直紀	(修士課程在学・化環代表理事)
"	斎藤 晋一	(エネ平2卒・4院修了・エネ部会長)
"	矢田 健二	(エネ平21卒・23院修了・エネ副部会長)
"	安田 拳介	(修士課程在学・エネ代表理事)
"	黒木 正幸	(建設平1卒・3院修了・建設部会長)
"	富来 礼次	(博士課程平15修了・建設副部会長)
"	秋吉 善忠	(博士課程平24修了・建設代表理事)
"	楠 敦志	(電子平2年卒・電子部会長)
"	河野 将司	(電子平29年院修了・電子副部会長)
"	木元 裕貴	(電子平30年院修了・電子代表理事)
"	押本 泰貴	(修士課程在学・福祉部会長)
"	佐藤 大和	(修士課程在学・福祉副部会長)
"	木村 洸揮	(修士課程在学・福祉代表理事)

■ 評議員名簿

大分支部	支 部 長	江口 正一	(エネ昭54卒・56院修了)
	副支部長	塚本 賢治	(知能平19卒・21院修了)
	副支部長	東 宏治	(エネ平11卒・13院修了)
福岡支部	支 部 長	小田 誠雄	(組織昭59卒・61院修了)
	副支部長	上田 和徳	(建設平3院修了)
	副支部長	深田 啓輔	(化環平5卒・7院修了)
熊本支部	支 部 長	柿下 耕一	(電気昭61卒)
	副支部長	水野 節	(機械平14卒・16院修了)
	副支部長	本田 恭久	(福祉建築平20卒)
大阪支部	支 部 長	平岡 学	(機械昭63卒・平2院修了)
	副支部長	橋本 芳典	(電気平12卒・14院修了)
	副支部長	中矢 繁芳	(福・機器平16卒・18院修了)
東京支部	支 部 長	柏原 康彦	(機械昭56卒)
	副支部長	後藤 正徳	(エネ昭57卒)
	副支部長	豊田 耕一	(電気昭58卒)

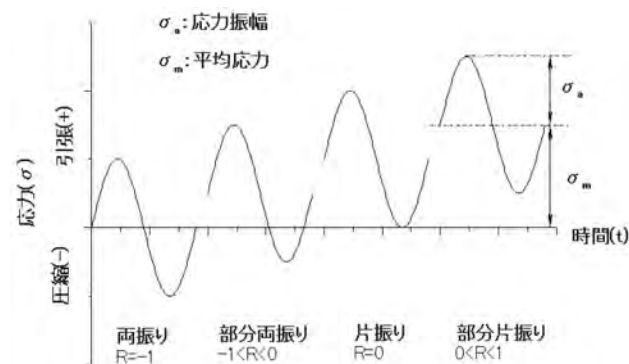
研究室だより

機械コース 材料力学研究室
博士前期課程1年 岐部 敏喜

機械・構造物の破損事故の原因を調べると、その大部分は疲労が関係して起こっている。したがって、設計する際に材料の疲労強度を知ることが特に重要である。また、部材の大型化・軽量化に加え高速化・使用環境の過酷化および経済性の要求により、従来の永久使用を前提とした設計から有限寿命を前提とした設計が一般的となっている。有限寿命を前提とした場合、疲労寿命を予測することが設計・保守・管理を合理的に行う上で必要である。このようなことから材料力学研究室では、疲労強度の尺度となる疲労寿命の研究を行っている。

疲労とはどういう現象か

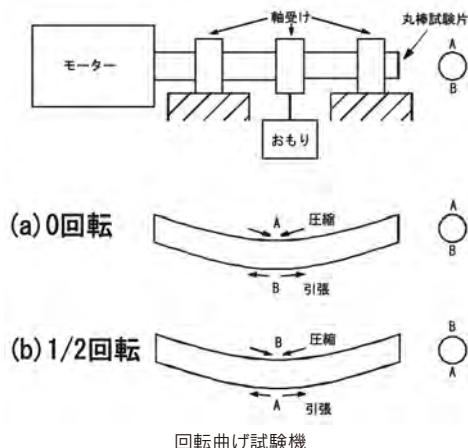
細い針金を手で引っ張って切るとは極めて難しいが、指で摘んで同一個所を何回か繰り返し曲げると、ぽきっと折れるように壊れる。応力が繰り返されればき裂が発生・伝ばし部材を破壊に導く。このように、降伏点よりかなり小さい応力でもそれが多数回繰り返されることにより、機械・構造物を破壊に至らしめる現象を疲労破壊という。疲労破壊は機械や構造物の破壊事故原因の90%を占め、疲労破壊は何の前触れもなく突然起こることが多い。



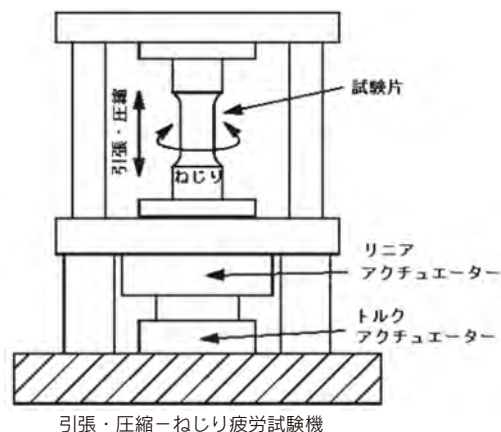
繰返し応力の定義

疲労試験機

材料の疲労強度は、規則的な繰返し応力をくわえたときに破壊を生ずるまでの応力の繰返し数（サイクル数）によって表される。この破壊までの繰返し数を疲労寿命という。材料の疲労寿命を明らかにするために材料力学研究室には下の図のような、回転曲げ疲労試験機と引張・圧縮-ねじり疲労試験機がある。回転曲げ疲労試験は1方向の繰返し応力を負荷（引張・圧縮）させる単軸試験、引張・圧縮-ねじり疲労試験は、引張・圧縮-ねじり方向の応力も考慮された2軸疲労試験機である。実際の機械・構造物では様々な応力が作用しているため単軸疲労寿命だけでなく、多軸疲労寿命の予測が必要となってくる。



回転曲げ試験機

応用化学科 平田研究室
博士前期課程2年 人見 隆太

私たちの研究室は、平田誠准教授、國分修三技術職員のご指導のもと、博士前期課6名、学部生4名で研究に取り組んでいます。当研究室では、主に廃棄物の有効利用を目的とした物理的・化学的・生化学的处理に関して研究しています。特に生化学的手法では、有用微生物を探索し、発酵特性などを明らかにするとともに環境負荷の低い新規操作法・装置を提案しています。最近では乳酸発酵やメタン発酵、水素発酵などの研究を中心に取り組んでいます。今回はその中から乳酸菌による乳酸発酵を用いた廃棄物の再資源化について簡単に説明します。

乳酸菌とは、炭水化物を発酵してエネルギーを獲得し、多量の乳酸を生成する一群の細菌の総称です。乳酸菌による発酵は、食品の生産・保存、家畜の飼料、植物の肥料など様々な面で用いられています。しかし、乳酸菌の増殖には多くの種類の栄養素が必要なため培地のコストが高くなります。そこで、当研究室では廃棄飲料や焼酎粕などの未利用資源を乳酸発酵の栄養源として活用することによって乳酸発酵培地のコスト低減、また廃棄物を乳酸発酵するこ

とによって肥料化・飼料化し、再資源化することについて取り組んでいます。

2019年度は、研究室メンバーでのキャンプや親睦会など多くの行事を行い親交を深め、研究活動においては、先輩・後輩の垣根を感じさせない意見交換が頻繁に行われました。仲良く、みんなで協力し合い楽しむことをモットーに日々の研究に取り組んでいます。

創生工学科 機械コース 計測制御研究室 准教授 貞 弘 晃 宜

平成31年4月に大分大学理工学部創生工学科機械コースに着任した貞弘晃宜と申します。平成17年に東京工業大学大学院理工学研究科機械制御システム専攻博士後期課程を修了し、その後東京電機大学で助手・助教として5年間勤めたのち、昨年度まで長崎県にある佐世保工業高等専門学校機械工学科で講師・准教授として勤務しておりました。

専門分野は、主として大学時代に取り組んでいたロボットの運動制御、東京電機大学以降に取り組んでいるロボットの医工学応用、筋電位を用いたマン・マシン・インターフェース (MMI) の開発、佐世保高専所属以降に取り組んでいるものづくり、などです。以下では、4月の着任以降私の研究室に所属してくれた学部生6名と一緒に取り組んでいる、現在のテーマの概要について簡単に説明します。

(1) 筋電位の電気力学的遅延を活用し事前に人間の動作を推定するMMIの開発

人間が機械を操作するときに、複雑な操作を行わず、直感的な操作を行いたい場合があります。侵襲的にならず、人間の意図(に近い情報)を取得可能な生体信号の一つが筋電位です。筋電位には、その発生機序から、人間の動作よりも事前に発生する電気力学的遅延という性質があります。事前とは言ってもほんの0.1秒程度なのですが、これを陽に考慮してMMIを構築することで、たとえば遠隔手術において生じるネットワーク遅延による操作への影響を減じたり、あるいは現状の筋電位MMIでは実現不能な素早い運動時でも遅れなくアシストが可能になったりします。

(2) 複雑な流れ場の速度計測法の性能改善

動画像を用いた非接触計測法である粒子画像流速測定法や粒子追跡法と呼ばれる方法は、おおよそ30年前には流れ場の速度計測法として確立した手法ですが、流れ場に存在する速度ベクトルの大小の差が大きく非線形な場合はうまく計測結果が出てこない、という問題があります。この問題に対して、非線形信号推定理論や近年隆盛の機械学習等を用いて性能改善を試みています。

(3) 船舶の自動運転を行うロボットシステムの構築

前任地の長崎県では低炭素社会の実現に向けて、水素エネルギー利用の推進をはかっており、その一環として、水素で動く船の自動運転をテーマとしています。テクノロジーの進歩により自動運転に必要な自己位置を取得・推定したり、同時に周辺の地図を作り運航計画を立てたりといったハードウェア・ソフトウェア単体は安価かつ容易に利用可能です。しかし、これらを船舶の自動制御までを含めて取り扱うシステムは存在しないため、そのような統合システムの構築を行っています。

創生工学科 福祉メカトロニクスコース 准教授 後 藤 雄 治

私は2007年4月に大分大学工学部、機械エネルギーシステム工学科 エネルギーコースの電気系教員として着任し、理工学部への改組に伴い、現在は創生工学科福祉メカトロニクスコースに所属させて頂いております。当研究室は、博士後期課程3名、博士前期課程5名、学部生9名で構成されており、日々楽しく研究活動を行っております。

現代は、大量生産・大量消費の時代から再利用の時代に大きく様変わりしつつあります。超高層ビルや高架橋、稼働中のプラント等は新しく新築や改築、設備更新等を行う余裕が無い場合が増えているため、より安全性を担保しつつ長期に渡って有効に活用されるようになってきています。そのため、これらの検査・診断技術の高度化は大変重要になりつつあります。一方、東日本大震災の影響もあり、我が国における安定した電力エネルギーとしての原子力発電の見直しや安全性が問われると同時に、資源エネルギー庁が推し進める水素社会の実現に向けた「水素・燃料電池戦略」等が検討されて始めております。

以上のような状況を踏まえ、私の研究室では電磁気現象を利用した計測・診断技術を基礎として、「新しい電磁気センサ開発」や「電力・エネルギー機器支援技術」について研究開発を行っています。

◎「新しい電磁気センサ開発」

この領域としては、主に次世代ジェットエンジンのタービンブレードの損傷度合いを診断する新センサの開発や、自動車エンジン締結用の高張力ボルトの緩みを高速診断する電磁気センサの開発、ジェットエンジンのインペラー軸部に施されている高周波焼入れ深さや硬度の評価を行うセンサの開発、大型重機やプラント構造物で使用する鋳造部におけるセメントイトや残留オーステナイト含有量を評価する小型電磁気センサの開発、ガス鋼管の腐食検査を実施する電磁気診断手法等の研究・開発を実施しております。

これらの検査・評価手法の研究開発は、緊急に実用化が期待される課題が多く社会的要求度は高いものの、現存しない新技術であるため、民間企業単独での研究開発には失敗のリスクがあり困難な領域とも言えます。そこで当研究室では、基礎理論や高度な電磁界解析技術を駆使し、新しい計測・センシング手法を提案すると共に、民間企業と共同で実用化に向けた取り組みを積極的に行っております。

◎「電力・エネルギー機器支援技術」

この領域としては、次世代の電力エネルギーや電気自動車の電源として注目されている固体高分子形燃料電池の評価技術や、より厳格化された原子力や火力発電所内の新しい高速検査・診断技術、また原子力発電所の停止に伴い急激に需要が増し、老朽化による事故が懸念されている石油精製プラントの計測・診断技術等に関する研究開発を行っています。

固体高分子形燃料電池の評価技術に関しては、非接触で電池周囲の空間磁界強度を測定することで、燃料電池内部で電気が発生している部分(膜/電極接合体(MEA))における発電電流分布を逆問題解析により推定・評価する新しいセンシングシステムを提案しております。

原子力や火力発電所内の新しい検査・計測技術に関しては、熱交換機伝熱鋼管や保温材が巻かれている被覆鋼管等

を検査対象とし、鋼管内面及び外面欠陥検査を可能とする、交流磁界や直・交流合成磁界、パルス磁界等を使用する新しい電磁気検査法の提案を行い、企業との共同で実用化に向けた研究開発を実施しております。

私は、全国の職業訓練校（現、ポリテクセンター）の先生を養成する厚生労働省所管の職業訓練大学校（現、職業能力開発総合大学校）を卒業しています。そのため“実学・実践主義”の雰囲気の中で学生時代を過ごして来ました。その影響もあってか、当研究室では大学内でクローズされた研究ではなく、民間企業や外部研究機関等との共同研究を積極的に行い、基礎理論から応用・実用化までを視野に入れた研究開発を目指したいと考えております。また研究室配属の学生さん達には、民間企業や外部機関との共同研究を通して、実社会の雰囲気や世の中の動き等を見て頂き、その中で改めて自分の進路等を見つめ、考えてもらえればと思っています。

微力ではありますが、世の中に少しでも貢献できる研究開発を学生と共に行っていきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



＜後藤研究室の集合写真＞

会 員 だ よ り

「1970年代後半の大学生活」

松 浪 正 信
昭和54年 組織工学科 卒業



理工学部（工学部）同窓会の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は昭和54年（1979年）に工学部組織工学科を卒業した松浪と申します。現在は東京のソフトウェア開発会社、株式会社コアに勤務しています。大学を卒業して41年が経過しています。

私の入学当時のコンピュータは大型汎用機が中心で、私が現在従事しているソフトウェア業界は、まだまだ会社数も少なく、中小企業がほとんどでした。NECのPC9800シリーズのパソコンが発売されたのが1982年辺りでした。当時ソフトウェアはコンピュータ機器の付属品であり、世間での認知度は非常に低かったと思います。そのような状況で、コンピュータをソフトウェアサイドから受講できる組織工学科は、私が3回生で、学籍番号は50339でした。50は昭和50年入学を示し、3は工学部で電気、機械、組織の順で3、39は氏名のあいうえお順で39番目を示していました。

授業料は月3,000円で私の3つ先輩は確か月1,000円でした。それでも掲示板に授業料の滞納通知者が時々張り出されていました。パチンコで2万円くらいは勝てた時代でした。

授業は六角堂で一般教養を受け、専門課程は、現在の理工6号館あたりだったと思います。数学の先生からはこの学年は未だかつてない程、出来の悪い学年だと何度も注意されていたのを覚えています。食堂のジュークボックスからは、ピンクレディーのペッパー警部が流れていました。

私の学業成績はクラブを優先したため、出席数が少ない学科もあり、蚊取り線香（成績表の優・良・可の可が多い意味）でした。但し、読書だけは人に負けないくらいしま

した。歴史小説、経済小説、山岳小説が好きでした。クラブはワンダーフォーゲル部に所属しました。全員で40名くらいの所帯でした。選択した理由は体育会系には所属したいと思っていた半面、運動神経はあまり良くなかったことなどを考えた結果からでした。自然や緑が好きだったのもあったかもしれません。日々の練習は、午後4時ころから男子寮の前の芝生で準備運動をし、裏山で歩荷と称して部員を背中に担いで基礎体力をつけていました。おかげで現在も体幹には自信があります。

今振り返ると旦の原の自然の中で、伸び伸びとストレスを感じずに生活できた4年間だったように思います。全て40数年前の話です。当時の仲間は現在でも親友として長く付き合っています。私の自慢の宝物の1つです。

最後になりましたが、皆様のこれからのご活躍とご多幸をご祈念しています。

「社会人になってから」

甲 原 和 也
平成30年 工学専攻 電気電子工学コース 修了

同窓会会員及び、現役の理工学部生の皆さん、お元気でお過ごしのことと思います

平成30年に工学専攻電気電子工学コースを修了しました甲原と申します。

昨年12月に理工学部創生工学科戸高教授の研究室にリクルーターとして訪問した際に、会員便りを寄稿頂きたいとの申し出を頂きました。せっかくの機会ですので執筆させて頂きます。

現在社会人二年目となり、大分から遠く離れて鳥取県米子市で働いております。

米子市は海と山に囲まれた自然豊かな街で、山陰屈指の名峰大山や皆生温泉という有名な温泉街もあります。またすぐ近くに境港市がある関係で新鮮で美味しい海鮮料理の店がたくさんあり、休日にあちこち食べに行くのが趣味のひとつとなりました。

趣味と言えば私は学生時代を通して囲碁にかなり夢中になっており、こちらに引越してから大会などには欠かさず出場しています。幸いにも鳥取県大会で何度か優勝することができ、地元の囲碁好きの方達とたくさん知り合うことができました。

大分県と鳥取県で囲碁を打った感覚としては、大分県の人々は好戦的な人が多かった一方、鳥取県は自分から仕掛けずじっくり構えるタイプが多い印象で、県民性の違いなどが囲碁にも出ているのかなと不思議に思っています。

大学時代はモータに関する研究を行っており、現在勤めている会社ではブラシモータの業務に携わっています。

入社後数ヶ月の研修が終わった後にOJTに移行したのですが、学生時代にあまり勉学に励んでいなかったツケが回ってくるが多く、遅れを取り戻せるように必死に学び直しながら働いています。

また業務の中にはモータの性能向上やベンチマークを目的とした社内評価などもあり、大学時代に行った実験やレポートのまとめ・発表などの経験がとても役立っています。

まだ社会人になって3年も経ってはいないのですが、大学生の頃が遠い昔のように感じています。今思えば学生時代に膨大にあった自由な時間を生かしてきれていないという後悔も少なからずあり、現役の学生の方は後悔のないように自分がやりたいことをやるように行動してください。以上で近況報告とさせていただきます。



<大山>

大分大学理工学部(工学部)同窓会 Facebookのお知らせ

同窓会長 松尾孝美

翔工会のFacebookを、東京支部副支部長の豊田耕一さんに開設していただきました。これから、内容を増やしていきたいと思いますので、どうぞ、ご利用をよろしくお願いいたします。

Googleで、「大分大学工学部同窓会」で検索すると、以下のように、Facebookページを見つけることができます。



翔工会ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

<http://shokou.csis.oita-u.ac.jp/>

機関誌PDFをダウンロードできます。

また、住所変更もできます。

・ ホームページに関する質問や要望

同窓会活動に関する質問、要望等ございましたら、

shokou-request@oita-u.ac.jp

までご連絡ください。



理工学部ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

<https://www.st.oita-u.ac.jp/>

各学科のホームページも紹介しております。

今現在の理工学部・各学科の様子をぜひご覧ください。



編集後記

機関誌発行委員長 工学研究科 応用化学コース 人見 隆 太

機関誌「翔工」第30号の発行に関しまして、ご多忙中にもかかわらず、快くご執筆をお引き受けくださいました先生方、卒業生ならびに在校生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、各部会編集委員、同窓会事務の方々に感謝いたします。

令和最初の発行となりましたが、これからも会員相互の情報機関誌として本誌をご利用いただき、卒業生と同窓会ならびに研究室とのつながりを大切にしていきたくて思っておりますので、皆様の近況報告などの寄稿や様々な情報をお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。